

平成24年度 教育研究業績書

氏名 西山 要一

最終学歴	龍谷大学文学部（史学科国史学）卒業	
取得学位	学士	
所属学会	日本文化財科学会 日本西アジア考古学会 文化遺産国際協力コンソーシアム	
専門分野	文化財学 保存科学	
研究課題	文化財保存の歴史と理念 文化財の材質・技法 文化財保存環境 文化財防災	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存科学概論Ⅱ（後期）</li> <li>・保存科学購読Ⅰ（前期）</li> <li>・文化財環境学（前期）</li> <li>・文化財学研究法Ⅰ（前期）</li> <li>・世界遺産学概論（後期・1限のみ）</li> <li>・保存科学実習Ⅰ（前期）</li> <li>・保存科学実習Ⅳ（後期）</li> <li>・保存科学演習Ⅰ（一）（前期）</li> <li>・保存科学演習Ⅲ（一）（前期）</li> <li>・保存科学演習Ⅱ（一）（後期）</li> <li>・保存科学演習Ⅳ（一）（後期）</li> </ul>
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修復学特殊講義</li> <li>・保存修復学演習</li> <li>・保存修復学実習</li> </ul>
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修復学特殊研究</li> </ul>
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財学演習Ⅲ</li> </ul>
【研究上の特記事項】	<p>・日本学術振興会科学研究費基盤研究(A)海外『レバノン共和国所在壁画地下墓の修復研究』（2010～2013）を行っている。2012年11月19日に2010年来の現地調査参加者による研究会を開催、成果と課題を議論した。発表者・学生・一般聴講者など50名が参加。また、前後1週間に高松塚古墳壁画・法隆寺金堂壁画のほか東大寺などの文化財環境の現状調査も行った。・東日本大震災被災文書1500件の保存を継続し保存方法・保存理念の確立を図った。・三菱財団研究助成を得て『奈良における文化財の適正環境の研究』を継続し大気汚染の文化財影響の実態を明らかにし、防止策を検討した。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>・東日本大震災被災文書の保存を『保存修復学特講』で行い実践的な文化財保存教育とした。・奈良大学博物館企画展『文化財はいかに守られてきたか』の企画、展示を『保存科学実習』として行った。・仙台市・杵形遺跡の弥生時代津波土層のパネル作成を『保存科学実習』として行った。・その他の授業、実習においても実物の文化財を使って行うよう配慮した。</p>	
【社会的活動】	<p>・東日本大震災津波被災文書（南三陸町西光寺、岩手・宮城公文書）の保存を市民ボランティア・学生とともに行った。その成果の一部を奈良大学博物館企画展『文化財はいかに守られてきたか』で公開した。・仙台市・杵形遺跡の弥生時代津波土層の転写・パネル作成を行った。これらの活動に対して、奈良大学表彰・国際ソロプチミスト学生ボランティア表彰・すばらしい歌津をつくる協議会感謝状・仙台市教育委員会感謝状を受けた。活動と受賞を機に2013年1月26日に受賞記念報告交歓会を開催し、公文書保存、西光寺文書保存、津波土層転写の活動報告と保存参加者の意見交換などを行った。参加者は発表者・学生・一般市民など50名。・大阪府茨木市文化財審議会委員、大阪府阪南市文化財審議会委員、大阪府吹田市文化財審議会委員、福岡市元岡6号墳庚寅銘大刀保存指導委員会委員、奈良市環境審議会委員を務めた。・日本文化財科学会評議員 ・文化財修復大学院生インターンシップ協議会代表 ・ユネスコアジア文化遺産保護協力事務所事業委員会委員</p>	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	<p>・通信教育部長 ・奈良大学世界遺産講座『正倉院』講師 ・国際交流サークル顧問 ・ウインドオーケストラクラブ顧問 ・雅楽研究会顧問(2012年10月より)</p>	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①レバノン共和国ティール市郊外ローマ時代壁画地下墓の修復研究—ブルジュ・アル・シャマリT. 01遺跡2009～2011年度研究報告—	単	2012年11月	奈良大学、科研レバノン研究会資料	レバノン共和国ティール市郊外ブルジュ・アル・シャマリT. 01遺跡の2009～2011年の調査の成果をまとめた。特にT. 01- I 壁画地下墓が西暦196/197年にリューススのために造られたことを明らかにし、地上の掘込石棺墓H2からGod Panのマスク、260余のガラス玉、TRY銘のコインが埋葬状態のままに発見し、T. 01遺跡の性格、都市遺跡ティール・ローマ帝国との関係を知る重要なデータをまとめた。(全17頁)
②Study of the Conservation Project for Roman Underground TombT. 01 at Burj al Shamali, Tyre, Lebanon	単	2012年11月	同上	上記①の英文版(全56頁)
③レバノン共和国ティール市郊外ブルジュ・アル・シャマリ所在T. 01遺跡H2掘込石棺墓の調査	単	2013年3月	国士館大学イラク古代文化研究所、ラーフィダーンX X X IV (34号)	レバノン共和国ブルジュ・アル・シャマリT. 01遺跡の掘込石棺H2について、遺構・遺物の詳細報告を行った。特にGod Panのマスク、262点の不整形のガラス玉、花束などの副葬品と埋葬法を解明し、地下墓との関連を述べた。(P131～P140)
④14-3調査区SK1433出土の鋳造関連遺物等の自然科学的調査	単	2013年3月	斑鳩町教育委員会、史跡中宮寺跡発掘調査報告書	中宮寺跡の発掘調査で発見された鋳造遺構から出土した鋳滓・炉壁の蛍光X線分析・X線透過写真撮影等の保存科学研究を行い、これが梵鐘や仏具などの青銅製品の鋳造遺構・溶解炉であることを明らかにした。(P278～P285)
⑤				

<p>(学会発表)</p> <p>①ブルジュ・アル・シャマリ T.01遺跡調査概要(2009-2011)</p> <p>②ブルジュ・アル・シャマリ T.01-I 壁画地下墓の大気環境</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>2012年11月</p> <p>2012年11月</p>	<p>科研レバノン研究会 (2012年11月19日於奈良大学)</p> <p>同上</p>	<p>レバノン共和国ティール市郊外ブルジュ・アル・シャマリT.01遺跡の2009～2011年の調査の成果をまとめた。</p> <p>レバノン共和国ティール市郊外ブルジュ・アル・シャマリT.01遺跡 T.01-I 壁画地下墓の4年間の温湿度・紫外線・照度・大気汚染などの観測から、地下墓内の温湿度の変化が小さく、光の入らないことが良好な壁画の保存を可能にしたことを明らかにした。</p>
<p>(その他)</p> <p>①宮城県南三陸町・西光寺所蔵津波被災文書の保存</p> <p>②仙台市・沓形遺跡の弥生時代津波土層の転写とパネルの作成</p> <p>③正倉院内環境を実現する環境順応型収蔵庫システムの構築と文化財保存の検証</p> <p>④科学が解き明かす正倉院宝物</p> <p>⑤</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>単</p>	<p>2013年1月1日</p> <p>2013年1月</p> <p>2012年12月</p> <p>2012年12月</p>	<p>奈良大学表彰・国際ソロプチミスト学生ボランティア表彰・すばらしい歌津をつくる協議会感謝状・仙台市教育委員会感謝状受賞記念報告交歓会(2013年1月26日)</p> <p>同上</p> <p>奈良大学世界遺産講座『正倉院』</p> <p>同上</p>	<p>標記の津波被災文書の保存処理を述べ、文化財行政組織はもとより大学・市民の早期の救援・対応の大切さを論じた。</p> <p>標記の弥生時代(2000年前)の津波土層の転写とパネル作成を述べ、歴史資料・文化財資料として活用することの必要性を論じた。</p> <p>日本科学技術振興財団(JST)助成の産学連携研究の成果。従来は機器による温度20度、湿度60%の完全コントロールの保存環境のもとに文化財を保存するのが最適とされてきたが、正倉院を代表とする校倉建物の文化財保存環境を測定し、その四季の温湿度の緩やかな変化を取り入れつつ、適切な保存環境を作り出すことが長期の保存を可能にし、エネルギーの節減にもなることを論じた。</p> <p>正倉院宝物の組成分析分析やX線透過写真などの保存科学的研究は、文化財や歴史の研究の謎を解き明かした諸例を示し、人文科学・自然科学の学生研究の必要性を論じた。</p>